



2024年 7月 8日 担当 虻川

円相場、小幅高 160 円台後半 対ユーロも高い

8日早朝の東京外国為替市場で、円相場は小幅に上昇している。8時30分時点は1ドル=160円71~72銭と前週末17時時点と比べて5銭の円高・ドル安だった。6月の米雇用統計の結果を受けて米連邦準備理事会（FRB）による9月の利下げが改めて意識された。前週末に米長期金利が低下し、日米の金利差縮小を意識した円買い・ドル売りが優勢となった。

5日発表された6月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びは市場予想をやや上回った。だが、4月や5月分が下方修正され、6月の失業率は4.1%と市場予想よりも悪化。労働需給の緩和でインフレ圧力が低減するとして早期の米利下げ開始が意識された。5日に米長期金利は4.3%を下回る水準まで低下し、円買い・ドル売りにつながった。

もっとも、円の上値は限られている。景気が底堅くインフレ率も高めの水準を保つなか、市場ではFRBが9月に政策金利を引き下げたとしても連続的な利下げ局面に入るとの見方は少ない。しばらくは日米で金利差の大きく開いた状態が続く公算は大きく、株価が堅調に推移するなかで円売り・ドル買いも出やすかった。

円は対ユーロでも上昇している。8時30分時点は1ユーロ=173円99銭~174円01銭と、同9銭の円高・ユーロ安だった。7日実施されたフランスの国民議会（下院）総選挙の決選投票では、極右・国民連合（RN）が勢力を伸ばすとの予想に反して左派連合の新人民戦線（NFP）

が最大勢力になる見通しだと伝わった。拡張的な財政政策などへの警戒が高まり円やドルに対して

ユーロを売る動きが優勢となった。

ユーロは対ドルでも小幅に下げ、8時30分時点は1ユーロ=1.0826〜27ドルと同0.0002ド

ルのユーロ安・ドル高だった。

日経新聞



原油、続落 供給懸念和らぐ 金は最高値

8日朝方の国内商品先物市場で、原油は3日続落して始まった。取引量が多い12月物は1キロリットル8万2050円と、前週末の清算値より300円安い水準で取引を始めた。中東情勢の緊張が緩和に向かうとの期待から原油の供給懸念が和らぎ、前週末5日のニューヨーク原油先物相場が下落した流れを受けた。

イスラエルのネタニヤフ首相がパレスチナ自治区ガザの停戦交渉を再開すると決めたと伝わった。中東情勢を巡る軍事的緊張の緩和に向けて事態が進展するとの期待から、ニューヨーク原油先物には売りが出た。

金は反発。中心限月の2025年6月物は1グラム1万2352円と前週末の清算値を104円上回る水準で取引を始めた。8日未明の夜間取引で一時1万2389円をつけ、中心限月としての最高値を更新した。5日発表の6月の米雇用統計は米労働需給が緩和方向にあることを示した。米連邦準備理事会（FRB）が9月に利下げに転じるとの観測が改めて広がっており、米長期金利の低下で、金利のつかない実物資産である金先物の投資妙味が増すとの見方が相場を押し上げた。

白金も反発し、中心限月の25年6月物は1グラム5289円と前週末の清算値より94円高い水準で取引を開始した。

日経新聞



2024年 7月 8日 担当 虻川

小池都知事 3 選 党派色薄め広い支持 石丸氏、蓮舫氏上回る

任期満了に伴う東京都知事選挙が 7 日投開票され、現職の小池百合子氏（71）が 3 選を決めた。子育て世帯への支援拡大や医療体制の充実といった実績が支持を得た。2 番手には前広島県安芸高田市長の石丸伸二氏（41）が入り、前参院議員の蓮舫氏（56）を上回った。

小池氏は 7 日夜、当選確実を受けて「都民から『もっと改革を進めろ』という思いを頂戴した。これからも全身全霊で対応していきたい」と記者団に語った。

選挙戦で小池氏は自民、公明両党、蓮舫氏は立憲民主党や共産党が支援した。序盤から小池氏が一步先行し、蓮舫氏や石丸氏が追う展開だった。小池氏は政治資金問題を抱える自民党への逆風などを意識し、選挙運動では政党色を抑えた。支援を受ける政党のほか無党派層も取り込み、リードを守った。

石丸氏は得票数で小池氏に続く 2 番手に付けた。選挙戦では主要政党の支援を受けず、SNS（交流サイト）での積極的な発信を通じ無党派層の支持を広げた。既成政党への不満や政治不信を抱える有権者の一定の受け皿になったとみられる。

選挙戦で小池氏は保育料無償化の拡大、無痛分娩への助成といった子育て支援策のほか、認知症専門病院の新設などを掲げ、支持を集めた。日本経済新聞の情勢調査では小池都政を「評価する」と答えた有権者が「評価しない」を上回り、2期8年の実績への評価も安定した戦いにつながった。

自民党は4月の衆院3補欠選挙の全敗に続き、地方選挙での敗北が目立っていた。独自候補ではないものの、自主的に支援した小池氏の勝利を党内では前向きに受け止める声が多い。

連敗は止めた格好だが、都知事選と同日投開票の都議補選では苦戦している選挙区が多い。都知事選の勝利がどこまで党勢回復につながるか不透明感が残る。

蓮舫氏が告示直前まで所属した立民は都知事選での勝利を次期衆院選の弾みにする狙いだったが、思惑通りにならなかった。蓮舫氏は立民、共産両党の支持層には浸透したものの、無党派層への広がりを欠いた。次期衆院選での「野党共闘」に影響する可能性がある。

元航空幕僚長の田母神俊雄氏（75）は支持層が広がらず伸び悩んだ。

都知事選には過去最多の 56 人が立候補した。ポスター掲示板の枠が足りなくなったり、候補者と関係のないポスターが多数張られたりと混乱が相次いだ。政見放送でも都政とは無関係の主張やパフォーマンスが目立ち、選挙をめぐる現行制度のあり方が問われた。

投票率は 60.62%だった。2020 年の前回選挙に比べて 5.62 ポイント高かった。都知事選では 12 年以来、12 年ぶりに 60%を超えた。国内卸値の値上がりは円安など国際相場以外の要因も影響したとみられる。

日経新聞



2024年 7月 8日 担当 虻川

サウジ原油、調整金 2 カ月連続下げ 8 月積み 需給見極め

サウジアラビア国有石油会社のサウジアラムコは、8 月積みのアジア向け原油の調整金を 2 カ月連続で引き下げる。足元の原油価格は回復基調にあるものの、10 月から始める自主減産の縮小を前に、需給動向を慎重に見極めたい考えと見られる。

日本の石油会社がサウジと結ぶ長期契約の価格は、アジアで指標になっているドバイ原油とオマーン原油の月間平均価格に、サウジが価格動向などを踏まえて油種ごとに設定する調整金を加減して決まる。

代表油種「アラビアンライト」の調整金は 7 月積みから 0.60 ドル安い 1 バレルあたり 1.80 ドルとする。0.50 ドル引き下げた 7 月積みが続く下げで、下げ幅は 2 月（2.00 ドル）以来の大きさとなった。重質の「ヘビー」と中質の「ミディアム」もそれぞれ 0.70 ドル引き下げた。

国際的な原油価格は上昇基調にある。北海ブレント原油先物は 5 日に一時 1 バレル 87 ドル台半ばと約 2 カ月ぶりの高値をつけた。ドライブシーズンさなかの米国で原油やガソリンの在庫が減少していることや、米連邦準備理事会（FRB）による利下げへの期待が高まっているためだ。

もっとも、米国に次ぐ消費国の中国ではなお景気不安がくすぶり、需要が本格的に増えていくかどうかは不透明感が強い。供給面でも、サウジやアラブ首長国連邦（UAE）、ロシアなど石油輸出国機構（OPEC）プラスの 8 カ国は 10 月から日量 220 万バレルの自主減産を減らしていく方針で、

来年にかけては供給を需要が上回る供給過剰に陥る公算が大きい。

みずほ銀行の江口侑希調査役は「サウジは足元の原油上昇が続くかを慎重に判断するタイミングと見ているのだろう」と指摘している。

日経新聞



2024年 7月 8日 担当 虻川

中国、原油備蓄の6000万バレル積み増しを国有石油会社に要請

エネルギー情報分析会社ボルテクサとトレーディング筋によると、中国政府は国有石油会社に同国の緊急原油備蓄を800万トン（約6000万バレル）ほど積み増すよう要請した。

積み増しが完了すれば、中国では近年最大級の備蓄増強となり、約2カ月ぶりの高値近辺で推移している国際石油価格を下支えする要因となりそうだ。備蓄期間は今年7月から来年3月まで。ロイターの推計では、総量は同国の精製処理量4日分に相当し、日量約22万バレルとなる。中国は現在、日量約1100万バレルの原油を輸入している。

関係筋の話では、石油備蓄は国有石油会社の中国石油天然気集団（CNPIC）、中国石油化工集団（シノペック）、中国海洋石油集団（CNOOC）、中国中化集団（シノケム）、振华石油の5社が請け負っている。

Yahoo!ニュース